

【実施報告書】

データサイエンス・AI 教育シンポジウム

2022年7月5日(火) 15:00~17:45 金沢市文化ホール



2022年度北陸大学特別研究助成事業

データサイエンス・AI教育 シンポジウム

中部エリア初
Tableau、Exploratory,Inc.と
連携し共同開発した教育プログラム

AI教育推進のために何ができるか
一緒に考えるシンポジウム

- 参加費 無 料
- 事 前 予約制
- 会場型 オンライン型
- ハイブリッド 開催

2022.7.5 (火)
15:00-17:45
@金沢市文化ホール 大会議室

主催:北陸大学

共催:金沢市近郊私立大学等の特色化推進プラットフォーム

後援:大学コンソーシアム石川

I.【開催趣旨】

初中等教育で GIGA スクールが始まり、大学の情報教育もそれに対応したバージョンアップが求められている。北陸大学では 2022 年 4 月より全学で「データサイエンス・AI 教育プログラム」を立ち上げ、膨大なデータを収集、傾向を分析し、社会やビジネスの課題解決につなげるデータリテラシーを備えた人材の育成を目指した教育を開始した。

グローバル企業のセールスフォース・ジャパンとシリコンバレー発の Exploratory,Inc.と連携し、全学部の 1 年生は Tableau Desktop を用いたビジュアル分析を必修科目で学び、統計学科目では記述統計から機械学習までを学習する。また、2022 年度学内特別研究助成により学部を超えた研究グループがラボを立ち上げ、データサイエンスセンター開設を目指した研究をスタートさせた。

本シンポジウムでは、データ分析の第一線で活躍するゲストによる講演と北陸大学の取組みの紹介を通して、人材育成の観点からすべての年代のデータサイエンス・AI 教育の現状と未来について理解を深めることを目的とする。

II.【開催概要】

本シンポジウムは、基調講演、講演、ビデオ講演、事例紹介の5部構成とした。

また、開催形式は会場参加とオンライン参加のハイブリッドで行った。当日の様子は録画し、北陸大学ホームページにて配信している。



14:30【開場】

15:00【開会】小倉理事長・学長挨拶

15:05【第1部】基調講演 原 泰史 氏(神戸大学経営学研究科 准教授)



演題:「キャリアを『つくる』方法としてのデータ
サイエンス」

原氏より IT やデジタル化に関する技術は日々進化し続けており、あらゆる分野をデータサイエンスとつなぎ合わせ、新たな市場価値を常に考え続けることの重要性に関する具体的な提言があった。

15:45【第2部】講演 佐藤 豊 氏 (株式会社セールスフォース・ジャパン 常務執行役員
Tableau 事業統括 カントリーマネージャー)



演題:「デジタル時代に必要とされるデータスキルと
データリテラシー」

佐藤氏から今後育成すべきデータピープルに必要なスキルは、データスキルとデータリテラシーであり、適切な“問い”を立てる力が真に求められるコミュニケーション能力につながるということ
を、Tableau のデモンストレーションを交えながら紹介があった。

16:20【第3部】ビデオ講演 西田 勘一郎 氏(Exploratory,Inc. CEO)



演題:「学校からはじまるデータサイエンスの民主化」

西田氏より世界の大手企業の人材採用基準の事例から、大学の学びとは“How to Think”であり、そのためのツールがデータサイエンスのコアになると語った。

16:55【第4部】講演 津久井 浩太郎 氏(ヴェルク株式会社 取締役)



演題:「ビジネスの現場に変革をもたらすデータの力」

津久井氏から、データ分析支援事業の事例紹介があり、かつてデータ分析は専門的かつ独占的な事業であったが、現在は誰でも手軽に始められるようになったことで、将来は一般的なリテラシーとして身につけるスキルになると締めくくった。

17:20【第5部】紹介 田尻 慎太郎(北陸大学経済経営学部 教授)

藤本 雄紀(北陸大学経済経営学部 講師)



演題:「北陸大学におけるデータサイエンス・AI 教育の挑戦」

北陸大学のデータサイエンス・AI教育に関する取組事例を紹介した。

田尻教授からは、2022年4月から全学部で開始した「データサイエンス・AI教育プログラム」のカリキュラム構築の背景や学生の状況を紹介しながら、既存の情報リテラシーに関する科目を改変した経緯について紹介した。

藤本講師は、本学の Fab スペースである「ものづくり Lab」の活動について紹介し、学部系統やリテラシーに関係なく、誰でも気軽にチャレンジできる場を学内に作ることで、試行錯誤しながら仲間と楽しく学び合える環境の大切さについて語った。

17:45【閉会】 挨拶 田尻教授

IV.【参加者人数】

・参加者数 284 名（会場参加 65 名、オンライン参加 219 名）

・参加者地域

会場参加:

石川県、東京都、大阪府、神奈川県、千葉県、山梨県、愛知県

オンライン参加:

東京都、兵庫県、沖縄県、神奈川県、福岡県、富山県、大分県、千葉県、京都府、

愛知県、山形県、北海道、福井県、愛媛県、岐阜県、新潟県、外国(イギリス)等

V.【参加者所感】 一部のみ紹介

・自分も情報系の科目を担当しており、Tableau をカリキュラムとして導入可能かも、と興味がありました。

・オンラインによる開催によって参加のハードルが低くなりました。今後とも、対面とオンラインを併用して頂けると大変ありがたく思います。

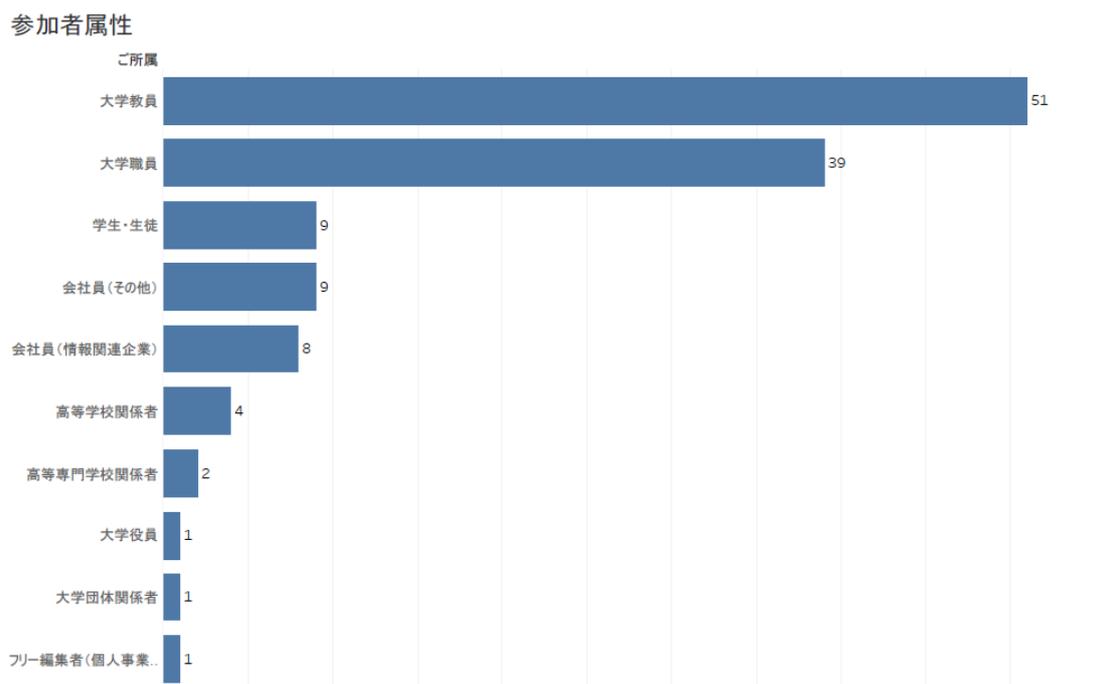
・高校現場、特に本校の実情とは離れていたが、高等学校という閉ざされた空間には聞けない話を聞いて、背筋が伸びる思いであった。

・予想をはるかに上回るレベルの高い講演で、満足しました。

- ・教育活動に企業との連携がうまくいっていることに感心しました。
- ・AI 教育について、いろいろな事例紹介をしてほしい。
- ・データサイエンス・AI 教育の未来を感じさせる、非常に楽しいイベントでした！データ分析支援を生業としている身としては未恐ろしくもありますが、学生の皆さんには、恵まれた環境で、たくさん試行錯誤し、多くのことを吸収していってもらえたら嬉しいなと思います！
- ・教育学からは明らかだと思われませんが、おそらく子供が 10 歳前後に「夢中になって遊んだ」分野の周辺で次のイノベーションが起こります。北陸大学のとりくみは素晴らしいものですが、それを 10 歳前後の子供の「わんぱく塾」のようなもので継続的に実行すると(大学生はチューターになることができる)おそらく近い将来壁を破るものになると思います。「卒業生」を大事にして、その中から出た「才能」はブランド的な広告になってもらう、という手段もあります(ちょうど公文式がやっているように)。そのようなことを考えながらシンポジウムに参加していました。
- ・非常に楽しく参加させていただきました。企業さん目線の考え、大学人としての考えをコンパクト学べ、ぜひ次の機会も期待します。

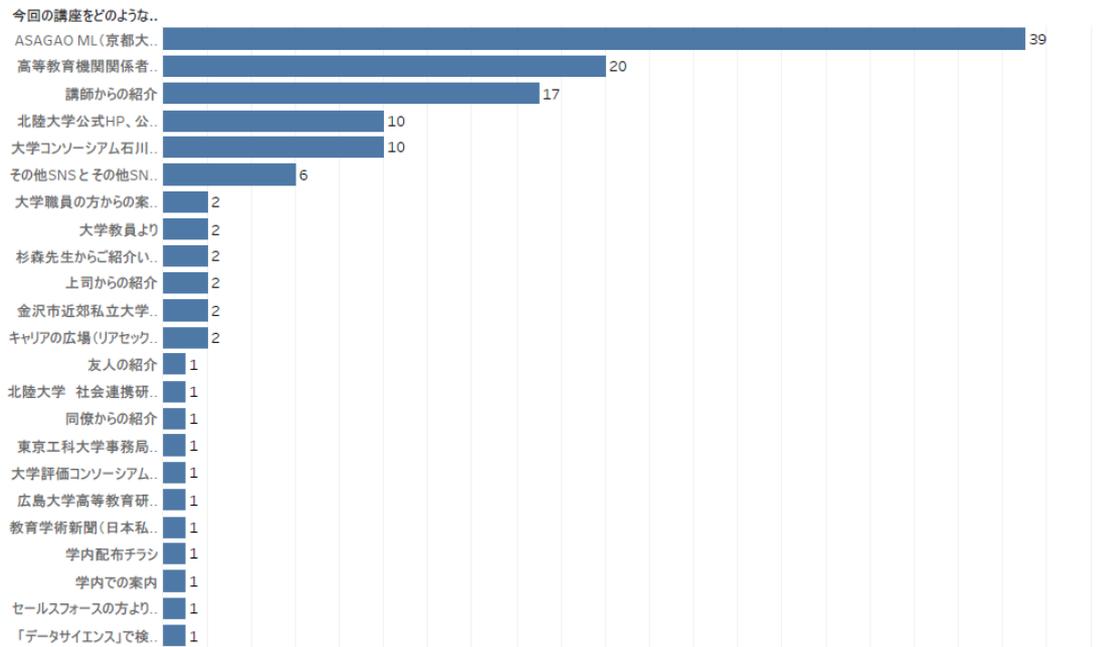
【受講後アンケート】集計結果（一部抜粋）

1. 所属について



2. 講座を知った方法

講座を知った方法



3. 各講演の満足度について

